

# 第25回地域福祉実践研究セミナー

## in 沖縄・うらそえ

### ワークショップ 2 報告

性の多様性に関する理解と性的マイノリティへの支援を  
地域共生社会の視点で考える

- 実践報告者** : 竹葉梓氏(ていーだあみ)、玉城祐貴氏(nankr沖縄代表)、  
まあーちゃん(沖縄lgbt支援アライ事務局)、玉城福子氏(非常勤講師)  
石原宏紀氏(浦添市社協)
- アドバイザー** : 加藤慶氏 (沖縄大学)  
矢野恵美 (琉球大学)  
原田正樹 (日本福祉大学)
- 地域担当者** : 浦添市市民協働・男女共同参画課

## 参加者の状況

- ▶ **会場** 浦添市  
市民協働・男女共同参画ハーモニーセンター
- ▶ **参加者数と内訳** 36名
  - 県外 社会福祉協議会、病院  
学校、地域包括支援センター など
  - 県内 行政関係者、社協、当事者組織、  
学生 など

# 目 的

浦添市は「**性の多様性を尊重する社会を実現するための条例**」の制定を検討している。(沖縄県内では最初)

今回の分科会では、**当事者の立場**から県内においてさまざまな支援活動を行っている方々に**現状や課題**を聞き、それらを通して公的機関や専門職が「性の多様性」について取り組んでいく上での留意点などについて検討する。

また、これから地域共生社会を構築していくための取り組みについて協議する。

# 展 開 方 法

午前

**講義Ⅰ 「性の多様性と支援ー社会福祉の視点からー」** 加藤先生

この問題を考えていく上での基礎的理解

**当事者、関係者からの報告**

- ① 「那覇市におけるパートナーシップ制度の現状と課題」
- ② 「沖縄県内におけるMSMを対象としたHIVの予防啓発活動の実際」
- ③ 「多様化する生き方だからこそ～相談員から見えてきた当事者の声」
- ④ 「イベント運営を通じて：LGBTQ当事者のエンパワメント」
- ⑤ 「地域における福祉教育活動の推進」

**講義Ⅱ 「条例化することの意義」** 矢野先生

各自治体の動向、条例化することの必要性、日本の課題(各国の動向)



# 展開方法

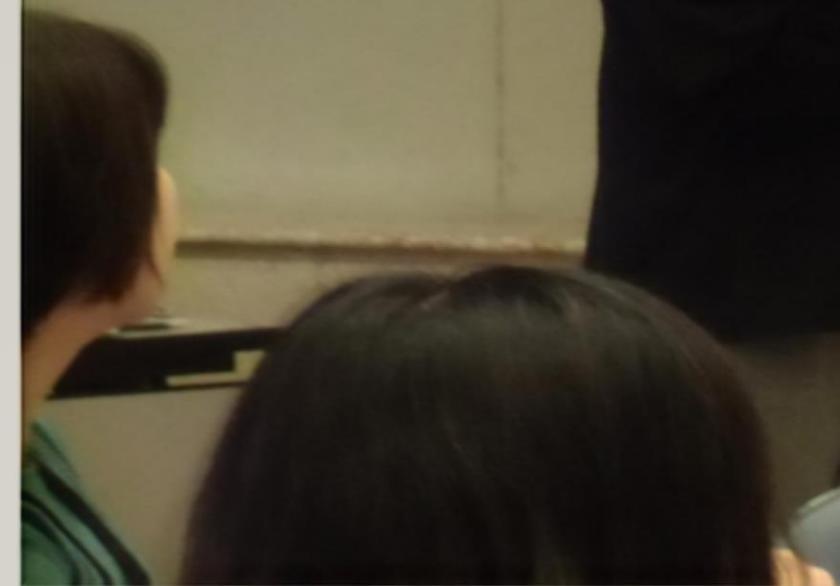
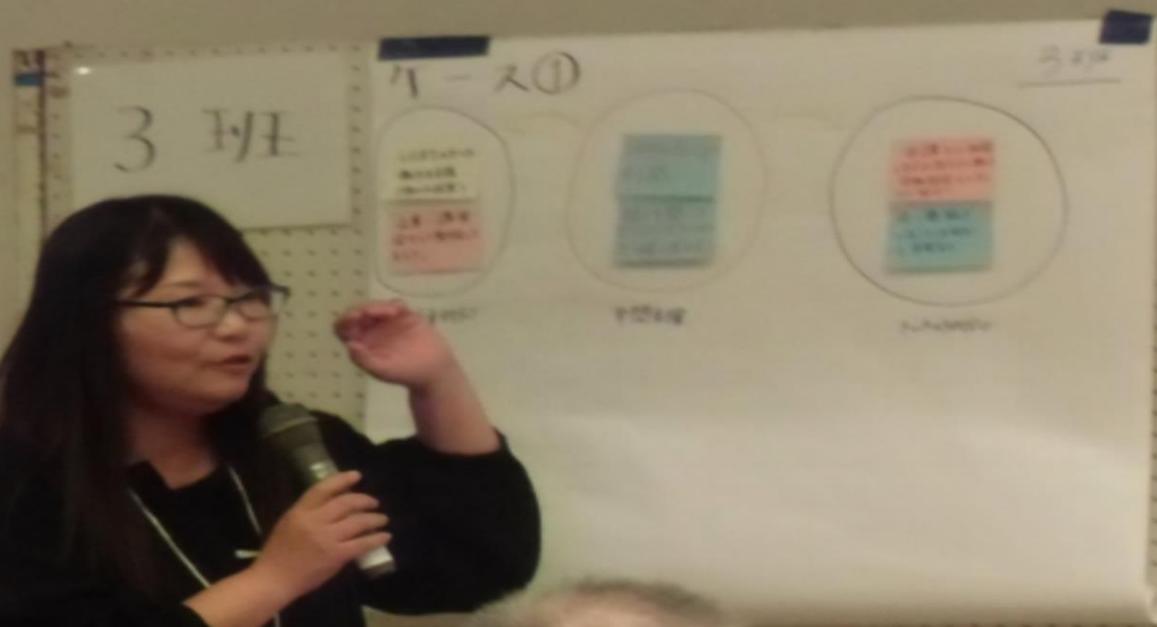
午後

**グループワーク 事例検討（問題共有型）**

- ①仕事をしていたが、性的志向をカミングアウトしたら、雇用継続を拒否された。**
- ②性別違和を感じている子ども。男子の制服を着ることがつらい。親が受け入れてくれないとSSWに相談。**
- ③長年連れ添ったパートナーが入院して危篤であるが、親族が認めてくれずに病室に入れない。**

**全体のまとめ リフレクション**





# 結 果

## 理解のための知識

**LGBT** Lesbian（レズビアン、女性同性愛者）、Gay（ゲイ、男性同性愛者）、Bisexual（バイセクシュアル、両性愛者）、Transgender（トランスジェンダー、性別越境者）の頭文字をとった単語で、セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）の総称のひとつ。Question（保留）を加えることもある。

最近では**SOGI**と表現されることもある。

「Sexual Orientation and Gender Identity（性指向と性のアイデンティティ）」

**ICD**（国際疾病分類）では「脱病理化」がすすむ。

1993 ICD-10 同性愛を削除、

2019 ICD-11 性同一性障害を削除

国連「性的指向とジェンダー表現」

6つの重大懸念事項

- ①権利侵害、②対人暴力、③経済的不平等、④健康格差、
- ⑤HIV/ AIDS、⑥青少年と教育

# 結 果

## 理解のための知識

浦添市 沖縄県では最初の条例（2017年に宣言を公表している）

**「性の多様性を尊重する社会を実現する社会を実現するための条例案」**

**パートナーシップ制度 現在24自治体が導入**

（渋谷区、世田谷区、豊島区、伊賀市、宝塚市、総社市など）

居住している自治体が認める制度。公営住宅の入居要件など。

ただし「婚姻ではない」／ 婚姻に基づく法的権利が一切得られない。

豊島区男女共同参画推進条例（2019）

差別禁止、パートナーシップ制度、アウティング（本人の了解を得ずに、

公にしていけない性的指向や性同一性等の秘密を暴露する行動）禁止、

SOGIハラスメント

# 結 果

## 現状と課題（当事者からの報告）

「好きでやっている」という偏見や自己責任。親や家族の無理解。  
誰にも相談できずに、生きづらさを抱えている。

エンパワメントできる当事者組織の必要性。

当事者コミュニティと行政、専門職等との間に「仲介」する役割が必要。

国としての動きも必要だが、基礎自治体での理解や取り組みが重要。

一方で、身近なところでは相談できない、という悩みもある。

若い人たちは、SNSを使って、個人的なコミュニティをつくる。そのなかで情報共有や相談をしている。ただし個別化してしまうことも懸念。

中年、高齢者層の課題もある。福祉関係者の無理解や戸惑い。

例えば、施設での受け入れ、  
LGBTの問題と生活課題の相談窓口がバラバラ。→ 相談機関の連携  
LGBTのなかでの相互理解も必要。

# 考 察

## ワークショップ 事例検討（問題共有型）

グループ編成 6名

社協職員、民生委員、福祉専門職、当事者、学生など  
多様な人たちで、事例について検討する。

支援の「正解」ではなく、それぞれの意見を共有する。

- ①企業内のアウティング、不当解雇された本人への支援  
企業の不当な対応について、何が問題なのかを確認する。  
本人の受け入れと関係機関への働きかけ、制度の不備など。
- ②男子生徒の悩み、親の戸惑い、担任の対応への支援  
本人（中学生）の立場、親の立場、担任の立場、学級の生徒など、  
それぞれの立場への働きかけや留意点（難しさ）。
- ③パートナーの危篤、親からの拒絶、医療SWの支援は・・・  
親や家族の気持ちもわかる・・・コンフリクト

# 考 察

## リフレクション

多様な人たちと話し合いができてよかった。

→ 当事者だけの話だと地域福祉という発想は出にくい。

地域の人たちの理解があって嬉しかった。

専門職だけでの話し合いでは気がつかないことが多かった。

LGBTという言葉は知っていたが、現状がよくわかった。

→ 事例検討を通して、自分ならどう考えるかが問われた。

事例検討で、本人のニーズ、支援していく上で何が問題なのか、

どうアプローチすればいいのか、いろいろな視点で考えられた。

こういう場を自分のまちでもつくりたい。

→ でもいきなりは出来ない。当事者や関係者の信頼関係。

こうした研修ができる「浦添」のすごさ。

福祉教育のテーマとして取り組んでいきたい。

# 結論・今後の展望

「地域共生社会」を実現していくために

〈制度・システムの改革〉＋〈地域住民の福祉意識〉

住民の福祉意識を高めていくための「学び」を大切にする。

→ 浦添市の地域福祉は「福祉教育」を大切にしてきた。

石原CSW「一人ひとりの物語を大切にしたい。

その物語を地域住民と共有、共感したい。」

松本市長「福祉こそが教育である」

## 今回の分科会プログラム

①理解するための知識 → ②当事者の意見、物語

→ ③事例検討（問題共有型） → ④リフレクション

LGBTというテーマを「我が事」にしていく学びの過程。

こうした展開は、地域ケア会議などでも実施できないか。